

東教大奪還叫ぶ

全共闘連合 初の統一行動

佐藤首相新閣止闘争に向けて、都内二十大学の全共闘学生約二千五百人は十七日午後、東京都文京区・大塚公園で「東京教育大学奪還・大学法適用反対集会」を開いた。集会後、東京教育大前を通って竹早公園まで約二キロのデモ行進をした。

この日の集会は、今日五日、革マル派を除く反日共全学連が統一戦線を組み、全共闘連合組織を結成してから初めてのもの。

また、この日は大学法が施行されてからちょうど一カ月で、「紛争重症校」と認定された東京教育大（宮島隆典学長代行）は国立大としては初めて大学法に適用されて文部省に紛争報告を提出、正統化に乗り出して行り、これに反発した全共闘のこの日の奪還闘争となった。

午後二時すぎ開会、会場の周囲を機動隊が囲めるなか、東大、日大、明大など各大学連合代表が、つぎつぎとデモ行進。三時ごろ隊列を組んで大塚公園から大塚駅方面へ向かい、午後五時ごろも会場に到着した。午後五時ごろ集会を終り、学生はデモ行進したが、春日通りの大塚三丁目交差点にさしかかると、機動隊がいた。機動隊がデモ隊を前面からさきまこむサンドイッチ規制をした。

機動隊はデモ隊を交差点中央で分断、小グループずつ行進させたが、この際機動隊の中にはジュラルミンのたばこまわりから学生の顔や頭をたたいたり、学生をデモ隊から引きずり出したりの、現実に「先して」ともあつた。交差点は一時大混乱し、学生の中にはこの混乱でけが人も出た。この日のデモで八人が都公安条例違反などの現行犯で逮捕された。



機動隊に追われ、金網を飛び越えて竹早公園に逃げ込む学生

大学側、学生入れず

東教大文学部 学外で授業再開

大塚指原に於ける「最重症」学外として注目されている東京教育大文学部（入江勇男学部長）が十六日から授業を再開した。しかし文学部学生の入構を許可しない大学当局と、検問をせずに教職員を授業を行なうとする文学部教授会との対立で、いったん構内には

9/18 信濃毎日

正門のむきにある通用門から学生たちが検問を受け、せろせろと入構。入江学部長は機動隊のデモで学生らにおはさすことをかわけていた。ところが、約百人が入構した五分後、大学当局は「検問を受けない不法入構は認めない」として通用門を閉鎖、学外退去を命じた。機動隊約三十人が文学部建ての入り口を固めたため、学生らは教室には入れず、向九時二十五分、機動隊に強制され、学外へ押し出された。

入江学部長は約五百五十人の教授生を前に「研究・教育のために学生が人権を失うのは当然の権利だ。しかし大学当局は権力の名をもちて排除するといっており、私を排除するために学外で授業を行なわせるを得ない」と喝問した。このあと入江学部長の代表が大学当局に抗議、学生らは近所の公民館や権能館などに散り、オリエンテーションを受けた。



機動隊のサンドイッチ規制を受けながらデモ行進する全共闘の学生たち—17日午後5時すぎ、東京・大塚2丁目

文学部除き24日に授業再開

東京教育大文学部は十七日開いた教授会で、同学部の教授らが担当している学部以外の学部の一級教育課程の授業を、十四日から再開する方針を決めた。十八日開

東教大闘争の支援集会開く

都内各大学の全共闘学生

全共闘書記局を捜索
警視庁公安部は十六日午後、東京都千代田区飯田橋「フジ」三、四階ビルにある全共闘連合の書記局を都公安条例違反の疑いで家宅捜索した。

十七日に東京・大塚で行なわれた東京教育大闘争デモで、シタケクジラを名づけた事件の裏付けのため、捜索したもの。

共産の八派連合の学生約二千人は十七日午後、東京・大塚の大塚公園で東京教育大闘争支援集会を開いた。東大、日大への突入をねらってデモ行進したが、大学側は警戒していた。八人の機動隊員に阻止され、八人が都公安条例違反、公務執行妨害で逮捕された。

9/18 産経

9/26 4/41

21